

みんなで作ろう

2013/1/1

# 里山自然公園

NO15



発行 信太山に里山自然公園を求める連絡会

連絡先 NPO 法人信太の森 FANクラブ 0725-44-8404 e-mail : hanaizm@ares.eonet.ne.jp

明けましておめでとうございます



Photo by mogi j0053 '12/9/14 信太山

第1回和泉市信太山丘陵保全・活用検討委員会（'12/9/7）の丁度1週間後、信太山に初めてコウノトリが飛来しました。10月には大野池などに7羽がやってきました。豊岡のコウノトリの郷公園でも7羽の移動は初めてとのこと。自然の偶然というより信太山丘陵の自然環境の豊かさをコウノトリが証明した想いです。

「コウノトリと冬の野鳥写真展」1月5日～1月30日 信太の森ふるさと館で開催

主催：信太の森ふるさと館 協力：コウノトリの郷公園・日本野鳥の会大阪支部

## 大きな前進から（2012）

## 確かな一歩へ（2013）

‘12年は信太山丘陵の保全にとって大きな前進の年となりました。信太山市有地保全・活用検討委員会が設置され、年末には「基本方針」（素案）が発表されました。今年度は、さらに具体化を図る「ワークショップ」が規模も拡大

して実施される見通しです。いよいよ具体的に里山自然公園をめざして「確かな一歩」を確立することが求められます。共に、力と知恵を集中させ、この歴史的な事業をぜひとも成功させるための確かな1年にしていきましょう。

## 「基本方針」(素案) を発表 ‘12/12/25

パブリックコメント(市民の意見を聞く)へ

昨年9月から検討されてきた「信太山市有地保全活用検討委員会」は、12月21日に第4回検討委員会を開き、第3回までの審議や11月27日に開催された「市民の意見を聞く会」での意見などを参考に現段階での素案をまとめました。「基本方針」(素案)は、12月25日、和泉市ホームページなどで発表され、1ヶ月間市民の意見を聞く「パブリックコメント」に付されました。

和泉市HPは

<http://www.city.osaka-izumi.lg.jp/>

HPのトップに入り、パブリックコメントまたは審議会をクリックしてください。

### ③ 「基本方針案」(素案) について

信太山丘陵の特性を踏まえ、今後の事業の拠り所となる基本認識として次のように示しました。

#### 【理念】

- \* 信太山丘陵は人々の営みにより里山的環境が維持されてきた歴史を持ち、貴重な動植物を含む湧水湿地、草地など生物多様性に富んでおり、市民の財産、地域のシンボルとして次の世代へ継承していかねばならない。
- \* 史跡や文化財が豊富な和泉市北部に位置する信太山丘陵は、地域の方々に親しまれてきた経緯と住宅市街地に囲まれている自然という稀な特性を有する。
- \* この良き財産を守り、育てるため、公民協働により、自然と向かい合いながら息長く継続して里山的環境を保持し、市民の憩いの場、自然体験の場、環境学習の場として活用していく。

と述べています。

文章の表現としてはやや意味不明の所もありますが、(例えば、「貴重な動植物を含む湧水湿地、草地など生物多様性に富んでおり」のところなど。多分、「湧水湿地や草地には貴重な動植物が生息するなど、生

物多様性に富んでおり」という意味とおもわれる。)ただ、大筋に於いて、

- \* 生物多様性に富んだ、市民の財産、地域のシンボルを次世代へ継承していかねばならない。
- \* 市街地の中の稀な自然
- \* 里山環境を保持し、憩いの場、体験の場、学習の場として活用していく

という点については納得のできるものと思われま

す。また、事業の骨格となる考え方をコンセプトとして、①自然と歴史を継承し②自然と人が織りなす里山的環境を再生し、③多様な生物の生息・生育環境を守る。④公民協働により、保全・活用事業を支える。と定めています。

事業の進め方では、①信太山丘陵にふさわしい従来にない公園づくりをめざす。②計画段階から市民の参画と柔軟な事業展開 ③短期間でインフラ整備するのではなく、環境順応を見ながら長期間かけてじっくり創り上げていく。としています。

以上の「基本方針」(素案)で明らかなように、「当該地にスポーツ施設計画は取りやめ、自然環境を保全せよ」という私たちの基本的な願いは実現される方向が見えてきました。私たちが求めてきた「里山自然公園」という考え方が現実の物となりかけているといえます。

尤も、「基本方針」(素案)は、現段階の案に過ぎず、市民の反応を見て修正の可能性も有り、かつ、市長に諮問することが即事業化でもないことを考えると今後とも曲折は予測されます。

進め方として、来年度以降(諮問後)「ワークショップ」で具体化を図るとされていることが、13年にとっても重要になると考えられます。

パブリックコメントに多くの意見を!

和泉市民、和泉市に職場がある人などは応募できます。(詳しくは市のHPで)

1月25日までは。

シンポジウム終わる 11月23日

## 「市民による信太山丘陵（市有地）の保全と活用計画」

81名の参加、熱心な討議

11月23日、和泉市コミュニティセンターで開催したシンポジウム「市民による信太山丘陵（市有地）の保全と活用計画」（主催：信太山に里山自然公園を求める連絡会 後援：和泉市）は、悪天候にも拘わらず81名の参加を得、2人の先生の話題提供とパネルディスカッション・質疑応答が行われました。

### 1、「湿地植物・生き物の保全」 夏原由博 名古屋大学大学院環境学研究科教授

湧水湿地とそこで暮らす生き物の特徴、湧水湿地の保全方法、愛知県の湿地保全の事例などについて報告されました。

#### 忘れてならないこと

最初に忘れてならないこととして、①科学的なデータに基づく順応的な管理が必要であると云うこと。自然は人間の思いのままにはならない。仮に設計図をつくっても、湿地は思い通りになるとは限らない。常に科学的なモニタリングに基づいて、計画を変えながら実践すること。

② 例えばトキソウガ珍しいからといって、その種だけ考えるのではなく、希少種が棲めるような生態系を目標にすること。

③ 信太山は自然だけではなくて古くから文化・歴史がある。自然と文化を共にいかしていく取り組みがある。それが取り組みに参加する人々の輪を広げる方向になる。

#### 湿地の減少と湿地植物の減少

国土地理院の資料から、明治以降6割の湿地が減少した。

大阪府の場合、かつて記録されていた植物が今



は失われてしまったものが88種ある。その内訳を環境別に見ると湿地の植物が一番多い。大阪府植物目録に記録されている種類だけ取り出してみても一番多いのは金剛山で69種類2位が信太山で38種類。小さい面積でも大阪府の中で貴重な自然を有する場所だということです。

#### 信太山の環境変化

明治の頃圧倒的に多かった荒れ地（草地）は今は殆どなくなって、樹林や宅地が広がっている。かつて遠くから眺められたヤマツツジも今は殆ど眺められない。チガヤの草原はネザサが一面に茂っている。昔の植生を復元するためには一生懸命管理が必要だ。

八竜湿地（名古屋市）や豊田自然観察の森（豊田市）の保全管理作業の実態についての様子や組織の運営形態などについても話が続いた。保全作業での保護団体・活動団体と行政の役割分担、助成金制度についても語られた。最後に、市有地ができたと安心しないで自衛隊の土地を含めた信太山丘陵の将来を何らかの形で担保しておくことの必要性を指摘された。

## 2, 「里山自然公園の計画と管理」 藤原宣夫

## 里山公園の計画

### 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授

府立大学に来るまで国土交通省の職員として公園をつくったり管理したりという仕事を20年間やってきました。その経験と得られた知識をお話したい。

### 伝え残したいもの

秋田の男鹿市で生まれましたがこどもの頃の裏山の体験が今になって思うととても重要だったと思います。よく、裏山で遊んだし、ワラビや、キノコなど山菜だけでなく生活に必要なものをそこから得ました。里山の自然を残すとは、貴重な生き物を残すということだけではなくこんな体験も残していきたいと思っています。

### 二次的自然の重要性

里山は人が作り上げた環境で、二次的自然です。時々環境が攪乱されることで生き物生存環境が確保される。二次的自然には貴重な動植物がたくさんいる。ショウジョウバカマ、フクジュソウなど春の林床植物は、春先にだけ花を付け、そのうちに消えてしまいスプリング・エフェメラルとよばれる植物ですが里山が管理されなくなればいなくなってしまう。

公園をつくる際の一般的な手順。まず第一に「計画条件の把握」→第2に「方針の策定」→第3に基本構想の策定→第4に「基本計画の策定」→「設計」→「施工」

方針設定から基本構想、基本計画の検討は専門家でなくてはできないわけでもなく誰でも参加できます。現在和泉市は、検討委員会に専門家3人と市民代表3名として市民も参加しています。また、市民の参加の方法としてはワークショップがあり、今、公園づくりの主流になっています。

### 管理することがつくること

里山公園を整備するに当たり、しっかりした設計図を描いて、設計通りにつくるということが従来やられてきましたが、里山の環境は土木的な工事で造られる物では決して無く、管理しながらつくっていかねばなりません。岐阜県の事例ですが、助成金をいただくための当初の計画図はどんどん変化して、3年経ったら実は計画と全然違うものができました。里山自然公園というものはあまり細かいところまで設計する必要は無いと云うことを申しあげたい。里山自然公園づくりはみんなで楽しくやるべきで、信太山もそうあってほしいものだと思います。

## パネルディスカッション&質疑・討論

パネラーは、全国カヤネズミネットワークの畠佐代子さんも加わり3名で行われました。畠さんは、挨拶の中で、信太山丘陵の該当地が草原だとイメージしていたが実際はネザサが茂っていることに驚き、「まず、保全の手はじめに、ネザサの刈り取り実験区をつくり、実験の様子を見ながら対策を進めてみては」と提案された。

会場からの質疑・討論も熱く行われました。

- \* 若い人たちの参加を増やすにはどうすれば。
- \* 広く信太山演習場も含め、将来の方向性を。
- \* 周辺の遺跡、文化財、施設との連携を。

- \* 和泉市内の中学校の教師は、「校区の自然観察は続けてきた。今後、地元の小学校とも連携しながら1年に1回は信太山を学習する取り組みを進めたい」と発言し、大きな拍手がありました。
- \* アンケートに、二人の講師のお話はとても良く分かったとの声が多くありました。

### シンポジウム

「市民による信太山丘陵(市有地)の  
保全と活用計画」 話題提供報告集  
一部 300円 希望者は事務局まで

